

会報

北陸電波学校
北陸電波専門学校
北陸電波高等学校
金沢工業大学附属高等学校
金沢工業高等専門学校
国際高等専門学校
金沢工業大学

VOL.

68

2021.7

心の中にいつまでも
ありがとう！
穴水湾自然学苑

令和3(2021)年度の活動(行事)

**中止もしくは
オンライン開催**

会員の皆さんに伝えたい

支部長からの便り

国難を乗り越え、 同窓会活動の再開を

令和3(2021)年度の行事(活動)を中止もしくはオンライン開催 最新情報についてはこぶし会ホームページで告知

会員の皆さまには、日ごろからこぶし会活動へのご支援とご協力をたまり、誠にありがとうございます。

昨年より新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、日本をはじめ世界で猛威を奮っています。一時は収束の兆しを見せていたものの、令和3(2021)年に入ってから変異種がこれまで以上の感染力で拡大を続けています。

我が国では、ようやくワクチンの接種が医療関係者そして高齢者へと進んでおりますが、皆さまへの接種が待たれるところです。

金沢工科大学園も「緊急事態宣言」または「まん延防止等重点措置」などを受け、対面授業からリモート(オンライン)に移行せざるを得ない状況となっております。

こぶし会では昨年以上の危機感をもって、会員の皆さまの安全をできる限り確保したいと考え、今年度も全国での支部総会、こぶし祭などの行事の中止を理事会で決定いたしました。

会員の皆さまには活動の中止に伴い、ご不便をお掛けすることになり、大変申し訳なく思っております。

コロナ禍ではありますが、少しでも学園や全国の支部の情報を会報誌そしてこぶし会ホームページに掲載してまいりますのでご高覧いただきますようお願いいたします。

皆さまにおかれましては、感染を防ぐためにも一層の注意と自己管理に努めていただければ幸いです。

希望に満ちた楽しい同窓会の再開を願い、この国難をみんなで乗り越えましょう。



こぶし会会長 松田 真一

中止・オンライン開催となった行事は以下の通りです。

- | | |
|-----------------|---------|
| ● 支部総会 | 中止 |
| ● 第25回こぶし会ゴルフ大会 | 中止 |
| ● こぶし祭 | 中止 |
| ● 全国一斉ボウリング大会 | 中止 |
| ● 九州・沖縄地区支部長会議 | オンライン開催 |
| ● 中国・四国地区支部長会議 | オンライン開催 |
| ● 近畿地区支部長会議 | オンライン開催 |
| ● 東海地区支部長会議 | オンライン開催 |
| ● 東北・北海道地区支部長会議 | オンライン開催 |
| ● 全国支部代表者会議 | オンライン開催 |

☐ こぶし会

新会員の加入で77,272人に 高専・大学で同窓会入会式

こぶし会入会式は、令和3（2021）年3月3日に高専同窓会、3月13日に大学同窓会でそれぞれ行われました。今年の入会会員は、高専同窓会が90人、大学同窓会が1,379人で、こぶし会の総会員数は77,272人となりました。

卒業証書授与式後に行われた高専同窓会入会式では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、時間を短縮して実施され、野中正樹高専同窓会長が新会員に対して「新型コロナウイルス感染症に注意しながらこぶし会会員として活躍を期待しています」と歓迎、激励の言葉を贈りました。



高専同窓会入会式の様子

ました。続いて、各クラスの代表幹事を紹介しました。

大学同窓会入会式は、殿村和也大学同窓会長がオンラインで出席し、「こぶし会活動に積極的に参加してください」と呼び掛け、幹事代表として田中佑樹さん（情報工学科）が「私たちは各人が持てる力を遺憾なく発揮し、会の発展に寄与いたします」と力強く入会の詞を読み上げました。

☐ ながつき会 土木工学科・環境土木工学科

広瀬さんと福田さんが第51期生幹事

ながつき会入会式は令和3（2021）年1月25日、学部4年生と教員、橋場正明ながつき会会長らが出席して開かれました。毎年、プロジェクトデザインⅢ発表会の後に、卒業する学生へのお祝いと激励を行っています。

今年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止として、オンラインで実施しました。第51期生が入会し、広瀬統一さんと福田奈応さんが幹事に選任されました。

☐ 琥睦会 電気工学科・電子工学科・電気電子工学科 情報通信工学科・電子情報通信工学科

琥睦会総会・記念講演会・懇親会を中止

会員の健康と安全を考慮し、今年度の琥睦会総会・記念講演会・懇親会は、中止させていただくこととなりました。

☐ 平結会 人間情報工学科・環境システム工学科 バイオ化学科・環境化学科・生命情報学科 心理情報学科・応用バイオ学科・応用化学科

第4回総会を中止。来年度以降に

今年度予定していた第4回総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止し、来年度以降の開催を検討します。

☐ 機扇会 機械工学科・機械システム工学科・物質応用工学科 先端材料工学科・物質システム工学科 ロボティクス学科・航空システム工学科

世代を越えた交流の継続を 39人に機扇会賞を授与

機械系3学科（機械工学科、航空システム工学科、ロボティクス学科）学部4年生354人が令和3（2021）年3月13日に卒業し、優秀な学生39人に機扇会賞を贈りました。コロナ禍のため、実家へ郵送もしくは研究室の先生から授与しました。

新たに加わった卒業生を含め、機扇会の正会員は16,095人となりました。機扇会では、コロナ禍において活動は中断しておりますが、イベントが再開し、皆さまと再びお目にかかれまことを楽しみにしております。

☐ 積木会 建築学科・居住環境学科 建築都市デザイン学科・建築デザイン学科

9月4日（土）に開催 建築研修会・総会

建築研修会として金沢港の新しい海の玄関口「金沢港クルーズターミナル」を訪れ、総会も実施します。



■日時 令和3（2021）年9月4日（土）13:30～（受付13:00～）

■場所 金沢港クルーズターミナル

※新型コロナウイルス感染症の状況によりオンライン開催になる場合があります。最新情報は、こぶし会HPをご覧ください。

心の中にいつまでも

ありがとう！ 穴水湾自然学苑



昭和43(1968)年に開苑した「穴水湾自然学苑」。
半世紀にわたって多くの学生と卒業生、
教職員が訪れ、人間性を磨いてきました。
令和3(2021)年3月にその歴史の幕を閉じた
学苑の歩みを振り返ります。



真っ白なセミナー棟の外
観は開苑当時から全く変
わらない

海洋活動はちょっとした気の緩みが事故につながりかねないため、緊張感を持って取り組んだ



「人間形成」の場 学習意欲を高める

穴水湾自然学苑は、建学綱領にある「人間形成」を培う場として大きな役割を果たしてきました。学生は仲間と寝食を共にしながら、①思いやりの心を育み、倫理観を養う②チームワークの大切さを知り、リーダーシップを発揮する③日本人としての自覚を深める—ことに努めました。

近年、2泊3日などの日程で宿泊し、グループ討議や海洋活動などを実施してきました。これらは必修科目である「人間と自然」として行われ、金沢工科大学園の「教育力」の中核を成してきました。

特に、入学したばかりの学生は、規律正しい生活を送ることで、新しい環境でのキャンパスライフを自覚するとともに、学習に対する意欲を高めました。



漕艇練習の拠点となったヨットハーバー



セミナー棟の建設風景



研修船は「青雲丸」と「アルタイル」の2艇が活躍した

■年表

昭和43年 7月 艇庫完成、救急艇・鳳来、ヨット4隻進水
11月 開苑
昭和45年 8月 ヨットハーバー完成
昭和46年 7月 ヨット無線局開設
昭和53年 4月 体育館、艇庫完成
昭和58年 3月 とも1号進水
昭和59年 9月 研修船・青雲丸進水
平成 6年 5月 海上実験艇・風神進水

平成 9年 2月 研修船・アルタイル進水
令和 3年 3月 閉苑



海上を疾走する「フェア号」に憧れた学生も多かった

懐かしの穴水湾自然学苑

学生時代に毎年過ごした穴水湾自然学苑。施設について振り返ります。

学生室



2段ベッドが3つと畳の間があり、学生たちは消灯時間まで語り合いました。毛布はラベルを上にしてたたむよう指導を受けました。

食堂



食事の用意があることは、学生にとってありがたいことだったようです。豊富なメニューの中で一番人気はやっぱりカレーでした。

研修室



入苑式やオリエンテーション、苑長の講話などが行われました。この研修室に来ると身が引き締まる思いでした。

屋上



セミナーハウスの屋上。当初の研修は、この場所で朝と夕方に集いが行われていました。

体育館



オリエンテーションが行われたほか、自由時間にはバスケットボールや綱引きなどで汗を流しました。

苑長室



苑長が在室した部屋です。人生経験豊富な苑長に、学生生活の悩みを相談した人もいたでしょう。

浴場



一日の汗を皆で共に流すことで、学生同士の絆が深まっていきました。

学苑での学び

学生は海洋活動やグループ討議などを通じて、知識と体力、精神力を養いました。



海洋活動

海が心と体を育てる



ロープワーク講習、研修船での海域調査のほか、船舶の避難時に使われるカッターでの漕艇練習を行い、海洋活動の締めくくりとして、チームごとにタイムを競いました。



カッターの漕艇練習では、オールを漕ぐ学生たちの協力が欠かせない



ロープワーク講習では、独特の結び方に悪戦苦闘した



カッターを用いたヨットレースでは、学生は風を読んで必死に先を争った

研修日程の一例

■ 1 日目

入苑式
13:00 オリエンテーション
14:10 講話
17:00 タベの集い
19:30 グループ討議
23:00 消灯

13:10 海洋活動
17:00 タベの集い
19:30 グループ討議
23:00 消灯

■ 2 日目

6:30 起床
6:50 朝の集い
9:00 海洋活動

■ 3 日目

6:30 起床
6:50 朝の集い
7:40 研修レポートの提出
8:50 グループ討議（発表）
退苑式



グループ討議・面接

学生同士が高め合う



チームごとにテーマを選び、ブレインストーミングで意見を整理し、発表を行いました。また、短期合宿で集団面接と個別面接を繰り返し、履歴書の作成などのスキルも磨きました。



時間を気にせず、今後の進路を教員に相談できた



本番を想定した集団面接は、張りつめた緊張感が漂った



朝と夕べの集い

協調性を身に付ける



朝と夕の2回、学生全員が集まる朝の集いが行われました。また、ラジオ体操や自己紹介などを行い、団体生活の基本となる協調性を養いました。

学生時代の記憶



匿名の女性の方
(大学・平成 16 年卒)

カッターの漕艇をほめられた

大学生でもこのような活動があるのかと驚きました。特に思い出深いのはカッターの漕艇練習で、男性よりも上手とほめられました。みんなで力を合わせてオールを漕ぐのが気持ちよかったですね。今後は有効活用を願っています。



鹿児島県在住

上代 映音 さん
(大学・居住環境・平成 19 年卒)

いろんな人たちと出会えた

カッターの漕艇練習でブイに絡まって途中リタイアしたのを覚えてます。それまでは地元のことしか知りませんでしたので、一度にいろんな地域の人たちと出会えたのは刺激を受けました。もう一度行きたかったですね。



閉苑にあたって 学生の意見が 研修の質を高めた

10代苑長
菅原 光彦 先生

穴水湾自然学苑は、惜しまれながら53年の歴史に幕を閉じました。学生の「人間形成」のための教育を行う研修施設でしたが、学生の提案で改善されたことも少なくありませんでした。

例えば、集合10分前に行っていた案内放送は、学生からの不要という意見で取り止めました。変更しても遅刻する学生はほとんどいませんでした。また、「名前を覚えたいので名札をつけた方がいい」「夏場は夕食の前に入浴したい」という要望も認めました。

私の「苑長講話」の内容についても学生に意見を求め、分かりやすくて心に残る表現に改善しました。外国籍の学生から「意義深い内容だった。母国に住んだことがない自分にとってアイデンティティを考える機会となった」という感想を聞いた時は、とてもうれし

かったことを覚えています。

さらに、研修終了後に学生が書く「研修レポート」も参考となったことから、学生との意見交換が穴水研修の質の向上につながったと言えます。穴水に在職して10年間。そのドラマの数々は、1冊の本にできるほどのです。

歴代苑長

初代／米田 實	6代／森田 外雄
2代／林 朝門	7代／安田 保
3代／伊勢 宗治	8代／斎藤 満
4代／速水 清	9代／長谷川 政秀
5代／藤村 善雄	10代／菅原 光彦

セミナーハウスと体育館を取り壊し

セミナーハウスと体育館の取り壊しは令和3(2021)年4月から始まり、9月までに終了する予定です。建物は全て解体され、更地になりますが、穴水湾自然学苑の名前は残ります。「人間と自然」の科目については現在、オンラインで実施されています。



東京都在住

上田 卓 さん
(大学・航空システム・平成26年卒)

コミュニケーション力磨いた

ヨット部員として4年間、毎週土・日曜日通いました。きれいな水質はヨットをする上で最高の環境で、まさにプライベートハーバーという感覚でした。主務を担当していましたが、穴水はコミュニケーション力を磨いた場所でした。



石川県在住

松本 治郎 さん
(高専・機械・平成7年卒)

学苑には8回も訪れた

30年以上が経った今でも、目を閉じると当時のことが思い出されるほど印象深いです。中学生の時に高専体験入学で初めて参加し、合計で8回も訪れています。朝から晩までぎっしりのスケジュールで、学苑での3日間を終えると、帰りのバスでは多くの学生がぐっすりでした。学生を温かく迎えてくれた学苑に感謝します。



参加者全員で
記念撮影！



魚を釣り上げて
親子でバシャリ！



親子工作教室では、
凧や紙飛行機、
身長計などの製作に
チャレンジ

研修船アルタイル号での
水遊びは子どもたちに
大人気でした



研修船
アルタイル号で
能登島大橋まで
クルージング



20年間の思い出は永遠に！

サマーセッション in 穴水

こぶし会の夏の恒例イベントとして人気があったのが「サマーセッションin 穴水」です。惜しまれながら終了した思い出のシーンを振り返ります。

「サマーセッション in 穴水」は、こぶし会結成15周年記念事業として平成9(1997)年に始まりました。親子の絆を深め、子供の好奇心を育むイベントとして好評を博し、毎年のように参加する会員も少なくありませんでした。

体験メニューは自然の豊かさを感じ

るものが多く、研修船アルタイルでのクルージングや魚釣りのほか、夜は、夜光虫の不思議な青白い光を観察しました。

特に、参加者全員が集まる「朝の集い」では、それぞれの家族が自己紹介して顔と名前を覚え、年代を超えて交流の輪が広がりました。

思い出のひとこと

福島県在住



坂本 誠二 さん
(大学・機械・昭和53年卒)

人生の大事な1ページに

このイベントが始まった当初から参加しています。小学校低学年だった娘は結婚し、孫と一緒に訪れるようになったことを考えると、このイベントは人生の大事な1ページになっていました。子どもや孫が喜ぶ姿は最高でした。

全国から会員とその家族が集まり、皆さんはとても仲がよかったと思います。子どもや孫が皆さんにかわいがっていただき、さまざまな社会経験ができたことは大きな財産だったと思います。

私がいなくても妻と娘、孫が参加するなど、我が家の夏休みは穴水が定番だったと思います。何から何まで丁寧にお世話をしていただき感謝します。

01

神奈川県在住



杉尾 憲 さん
(大学・情報・平成14年卒)
杉尾 瑞枝 さん
(大学・人間情報・平成14年卒)
山田 章博 さん
(大学・経営情報・平成14年卒)

再会する日が待ち遠しい

学生時代は就職のための合宿で施設を利用し、履歴書や模擬面接を特訓したことを覚えています。ブレーンストーミングの考え方は、社会人になってからも役立っています。

学ぶところというイメージを変えたのが、「サマーセッションin穴水」です。平成27(2015)年から参加しています。娘の千歳は、歳の近い友達ができ、今でも仲良くしてもらっています。妻の瑞枝は、アルタイルでの穴水湾クルージングが思い出深く、穴水クルージングの夜が予想以上に暑かったそうです(笑)。お世話いただいた事務局やヨット部員の方には感謝しています。もう一度皆さんと再会する機会があればうれしいですね。

02



ヨット部の協力で
風の力だけで進む帆走を体験



魚釣りをした後の
流しそうめんは最高！



バーベキューは
家族同士で
盛り上がりました



ラジオ体操で
体を動かします



セミナー棟の前で
にっこり



少し緊張しながら
各家族が自己紹介



石川県在住



高井 武 さん

(高専・機械・昭和43年卒)
(大学・機械・昭和45年卒)

人生を豊かにしてくれた場所

平成25(2013)年から孫5人とともに家族と一緒に参加しました。卒業して以来ですから40年以上経ってから訪れましたが、思ったよりもきれいだっことに驚きました。

最初の夏は涼しく、窓を開けると、新鮮な空気が入ってきて、気分が最高だったことを、今でも鮮明に覚えています。

体育館でバドミントンをしたり、ヨットハーバーで夜光虫を観察したり、研修船アルタイルで魚釣りをしたりするなど、さまざまな体験メニューが新鮮で楽しかったです。

年齢を重ねてから純粋に物事を楽しめる友人をつくるのは難しいもので、人生を豊かにしてくれた場所だったと思います。

03

群馬県在住



松本 雅彦 さん

(大学・土木・昭和59年卒)

我が家で一番大切な行事

「サマーセッションin穴水」には20年間毎年参加していました。先輩たちとの交流はとても楽しく、いろんな話を聞いたのは、大きな財産です。

日本には、正月などの年中行事がありますが、松本家で一番重要だったのがサマーセッションでした。申し込みの時期が来るとそれぞれしたものです。

自分たちで釣った魚を天ぷらにした味は忘れられないほどおいしかったです。情報がない中、大人も子どもも本気で遊びましたね。SNSでつながった参加者が我が家を訪れて来てくれたこともあります。このイベントを支えてくれた関係者の方に感謝しています。

04

石川県在住



大谷 治広 さん

(大学・電子・平成元年卒)

1年間の英気を養う

平成23(2011)年ごろから参加するようになりました。当時、単身赴任で子どもたちと離れていて、一緒に出かけられるイベントとして選んだのがきっかけです。

家族のほかに、滋賀県の自転車仲間を連れて行ったこともあります。息子が高校生になってもついてきてくれたのはうれしかったですね。その息子は今年から金沢工業大学に入学しました。ここでの楽しい経験が大学選びに影響したのかもしれませんね。

このイベントでリフレッシュすると、また1年間頑張ろうという気持ちになりました。ぜひ、このような企画を立ててほしいと願っています。

05

富山県在住



武内 良昌 さん

(大学・電子・平成7年卒)

友人と過ごす“隠れ家”

学生時代は、カッターで釣りをしている時にカサゴに刺されて手がパンパンに腫れた苦い経験がありますね(笑)。ただ、その時に出会った仲間は今でも交流があり、イベントにも一緒に参加していました。

会報誌に載っているクロスワードが好きで、イベントは誌面で知りました。最初に参加した平成24(2012)年は、とにかく暑くて大変でしたが、2泊3日の贅沢な時間が忘れられず、翌年からも訪れるようになりました。

ここは、友人と一緒に過ごす“隠れ家”のような場所でした。まだまだ誘いたかった同級生もいますので、今後の企画に期待したいです。

06

オンラインを活用して発信 ―月見光路プロジェクト

ネット de 月見・オウチ de 月見

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/tsukimi/>



新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、月見光路プロジェクトでは令和2(2020)年度は、毎年実施していた金沢市の中心街をあかりのオブジェで照らし出す「金澤月見光路」を中止としました。その代替イベントとして新しい情報発信の形を模索し、「ネットde月見・オウチde月見」と題して動画をインターネットで配信しました。

動画配信では、扇が丘キャンパスの

ライブラリーセンターと7号館周辺の芝生に、あかりのオブジェを設置し、その模様を撮影・編集した上で大学ウェブサイトの特設サイトに掲載しました。また、学生がオブジェを製作する様子やインタビューなどの動画も見るができます。

プロジェクトには建築学科の川崎寧史研究室、土田義郎研究室、西村督研究室に所属する約40人の学生が

参加しました。課外活動の時間が制限される中、ミーティングをオンラインで行うなど感染防止を徹底しながら、製作に取り組みました。

これまでにない動画配信という形式を取ったことで、編集による演出によってオブジェがより美しく見えるといった効果もありました。特設サイトは現在も開設中ですので、ぜひ一度ご覧ください。



7号館前の芝生に設置されたあかりのオブジェ



「あかり+音」の要素を持ったオブジェ



宙に浮いているような不思議な構造で製作したオブジェ

5年間の成長を披露

令和2年度卒業研究発表会

国際高専の卒業研究発表会が令和3(2021)年1月18日と19日に開催され、電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報学科の5年次90人が5年間の学習の成果を発表しました。令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の発表会と異なり、オンラインを中心とした開催となりました。

電気電子工学科では、19人の学生が13の研究テーマで発表しました。デジタル化が加速する社会で実践力を身につけるためにCG制作実験をしたり、脳波認証技術に取り組んだりした事例もありました。

機械工学科は、YouTubeに期間限

定で発表動画をアップし、教員と4・5年次の学生、保護者が視聴できるようにしました。29人が15の研究テーマを紹介し、ロボットの作成や電気自動車のGPSによる位置認識による自動アクセル制御、生体組織の機械特性の調査などがありました。

グローバル情報学科では、オンラインではなく実験室においてポスターセッション形式で実施し、42人が発表に臨みました。保護者などが参加できなかったため、残念な部分もありましたが、白山の魅力を世界に発信するデジタルトランスフォーメーションといったテーマなど学生は真剣な表情で成果を説明しました。



機械工学科は YouTube で発表



実験室で発表をするグローバル情報学科の学生



こぶし会 会計報告

令和2年度 保二会決算書

■収入の部 R.2/4/1-R.3/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
活動費収入	活動費収入	40,364
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		40,364

■支出の部		
大科目	中科目	決算額 (円)
経常費	事務局費	40,364
繰越金	繰越金	0
合 計		40,364

令和3年度 保二会予算書

■収入の部 R.3/4/1-R.4/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
活動費収入	活動費収入	950,000
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		950,000

■支出の部		
大科目	中科目	予算額 (円)
経常費	事務局費	133,000
助成費	助成費	787,000
慶弔費	慶弔費	30,000
合 計		950,000

令和2年度 こぶし会決算書

■収入の部 R.2/4/1-R.3/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
会費収入	正会員会費収入	45,895,000
	維持会費収入	4,330,000
基本財産運用収入	基本財産運用収入	2,298,782
雑収入	預金利息収入	413
	その他の収入	4,032,025
繰越金収入	繰越金収入	13,988,407
合 計		70,544,627

■支出の部		
大科目	中科目	決算額 (円)
経常費	事務局費	796,752
事業費	会報費	17,874,840
	支部費	1,976,046
	企画費	396,977
同窓会助成費	保二会	40,364
	高専同窓会	123,215
	大学同窓会	2,171,322
繰越金	繰越金	47,175,111
合 計		70,554,627

令和2年度 金沢国際高専同窓会決算書

■収入の部 R.2/4/1-R.3/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
活動費収入	活動費収入	123,215
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		123,215

■支出の部		
大科目	中科目	決算額 (円)
経常費	事務局費	123,215
繰越金	繰越金	0
合 計		123,215

令和3年度 金沢国際高専同窓会予算書

■収入の部 R.3/4/1-R.4/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
活動費収入	活動費収入	657,000
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		657,000

■支出の部		
大科目	中科目	予算額 (円)
経常費	事務局費	268,000
助成費	助成費	359,000
慶弔費	慶弔費	30,000
合 計		657,000

令和3年度 こぶし会予算書

■収入の部 R.3/4/1-R.4/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
会費収入	正会員会費収入	47,100,000
	維持会費収入	4,050,000
基本財産運用収入	基本財産運用収入	3,483,000
雑収入	預金利息収入	1,000
	その他収入	3,010,000
繰越金収入	繰越金	45,600,000
合 計		103,244,000

■支出の部		
大科目	中科目	予算額 (円)
経常費	事務局費	2,914,000
事業費	会報費	21,559,000
	支部費	3,324,000
	企画費	3,142,000
同窓会助成費	保二会	950,000
	高専同窓会	657,000
	大学同窓会	5,553,000
学生支援事業費	学生支援事業	100,000
積立基金	積立基金	30,000,000
予備費	予備費	35,045,000
合 計		103,244,000

令和2年度 金沢工業大学同窓会決算書

■収入の部 R.2/4/1-R.3/3/31		
大科目	中科目	決算額 (円)
活動費収入	活動費収入	2,171,322
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		2,171,322

■支出の部		
大科目	中科目	決算額 (円)
経常費	事務局費	260,700
助成費	学科助成費	89,506
	在学生助成費	1,800,000
	事業助成費	21,116
繰越金	繰越金	0
合 計		2,171,322

令和3年度 金沢工業大学同窓会予算書

■収入の部 R.3/4/1-R.4/3/31		
大科目	中科目	予算額 (円)
活動費収入	活動費収入	5,553,000
繰越金収入	繰越金収入	0
合 計		5,553,000

■支出の部		
大科目	中科目	予算額 (円)
経常費	事務局費	525,000
助成費	学科助成費	2,213,000
	在学生助成費	1,880,000
	助成費	900,000
慶弔費	慶弔費	35,000
合 計		5,553,000

南極地球観測越冬隊に参加

「何も音がしない無の世界」 卒業生3人が南極から帰国

南極地域観測隊越冬隊に参加した卒業生の山本貴士さん（大学・電子・平成8年卒）、佐藤貴一さん（大学・電気・平成14年卒）、真鍋仁志さん（大学院・電気電子・平成27年卒）が令和3（2021）年3月22日に帰国し、昭和基地での1年1か月に及んだ任務について語りました。

南極では、山本さんがオーロラなど宙空間の観測、佐藤さんは基地内のゴミなどの汚水処理、真鍋さんは電気を供給す

る発電機の制御を担当しました。

オーロラの観測では、太陽の活動が一番低迷している時期で、データ収集が難しかったそうで、新型コロナウイルス感染症で、日本に送った観測データの分析結果の対応が遅れ気味になるという影響がありました。山本さんは「何も音がしない無の世界を初めて体感した。今後の地球がどうなるのかを予測し、地球を延命するための一翼を担うことができ、よい経験になった」と話しています。



ひょうほく
スカーレン氷瀑を記念撮影した3人（左から佐藤さん、山本さん、真鍋さん）



夜空を覆い尽くすオーロラ

中国・四国地区支部長会議

支部でのオンライン会議の実施検討

令和3（2021）年度の中国・四国地区支部長会議が5月23日、オンライン上で開催され、9県（鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知）の支部長ら17人が出席し、現状の活動状況を確認しました。



最初に松田真一会長が「今後のこぶし会の取り組みについて忌憚のない意見ををお願いします」と述べた後、学園を代表して泉屋吉郎理事長、開催支部の植野博喜広島支部長が挨拶しました。

会議では、各支部が「アフターコロナの活動に向けてメンバーと情報共有をしている」「環境が整えばオンライン会議を実施したい」「SNSで連絡を取り合っている」「支部総会中止のハガキにコメントを手書きして会員に送った」と現状の活動を報告しました。

また、支部長会議の役割について、広島支部からは「支部長間の連絡を密にしており、各県に所属している会員の異動状況が共有できるので、支部活動への声掛けが円滑になっている」、高知支部は「支部長間の人間関係が良好になり、鳥取支部や徳島支部と交流を深められている」との意見がありました。

支部長からの便り Part.1

新型コロナウイルス感染症が収束を見えない中、各支部長から会員の皆さんに伝えたいメッセージを今号から紹介します。

支部長のコメントはこぶし会ホームページにも掲載しています →



道東支部

國枝 千秋（大学・建築・昭和52年卒）

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない現状ですので、今年度の事業は中止としました。一人でも多くの会員に参加していただけるよう役員一同知恵を絞っていきます。多くの会員と会える方法を役員で知恵を絞って考えていきたいです。

札幌支部

菅原 吉孝（大学・建築・昭和55年卒）

いつの時代も真心は伝わりますので、ハガキにメッセージを書き添える取り組みは大事です。今年度から役員会を札幌以外の函館や稚内などでも開催したいと思っています。

青森支部

伊勢 陽一（大学・土木・昭和51年卒）

卒業生のUターンをサポートするのも同窓会の大事な役割で、今年は1人の就職を手伝いました。若い会員を中心にバーベキューなど家族が集まるイベントを企画したいです。

岩手支部

佐々木 考（大学・電子・昭和53年卒）

会員とのつながりを強めるため、独自に支部会員にハガキを送りたいと考えています。新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底して、皆さんと会える日を楽しみにしています。

宮城支部

斎藤 孝一（大学・建築・昭和58年卒）

コロナ禍での活動のあり方を役員で話し合っています。今後は定期的な連絡体制を構築する必要があるでしょう。新しい人たちの意見を採用してマンネリ化を防ぎたいです。

秋田支部

浅野 喜秀（大学・土木・昭和51年卒）

いつも活動に参加してくれる支部会員は元気なので安心していきます。コロナ禍という状況にあっても、お互いのつながりを深める取り組みができればと考えています。

山形支部

武田 一則（大学・電気・昭和52年卒）

個々の会員同士では、オンラインなどで交流しているようです。現在、活動は自粛していますが、状況が好転すれば山形名物の芋煮会なども開催します。ご家族で参加してください。

福島支部

坂本 誠二（大学・機械・昭和53年卒）

国民へのワクチン接種が終わった暁には、金沢市で臨時の全国支部代表者会議を開いてほしいと思います。とにかく日常が取り戻せたなら早急に支部総会を開催したいです。



コロナ禍こそ 母校とこぶし会の絆の強化を

はじめに

新たな時代の到来を予感させる令和の御代に入り、既に2年半が経過致しました。しかしながら、昨年来、全世界を襲った新型コロナウイルスの蔓延はその終息も見通せず、日常生活をはじめ経済活動に対しても著しい障害を齎^{もたら}してきています。このようなコロナ禍にあっても、こぶし会の皆様には、日々レジリエントな活動を継続されておられるものと拝察致します。そして、常々母校金沢工科大学園に対して多大なるご支援を賜っていることに心から感謝申し上げる次第であります。

学園の近況

ご案内のように、本学園は昭和32年6月に北陸電波学校として開設以来、着実にその歴史を刻み、今年で64周年を迎えることが出来ました。その間、金沢工業高等専門学校(現国際高専)、金沢工業大学4学部、3大学院を設置し、近隣の八東穂キャンパス(白山市)には先端技術の研究・開発しそれらの成果の社会実装を目指す研究所群を集結させ、学園として輩出した将来有為の人材は約7万7千名を数え、我が国の発展に大いに寄与して参りました。

本学園は現下のコロナ禍においてもオンラインを始めとするハイブリッドな教育・研究を実践し、その王道を見失うことなく着実な歩みを進めて参りたく思っておりますので、これ

からも更なるご支援をお願い申し上げます。

コロナ禍における寄附文化の醸成

従来、我が国における寄附文化は米国などに比較して著しく立ち遅れていました。しかしながら、近年に至り徐々にではありますが、崇高なご意思の表出としてその醸成が進展してきております。本学園においても、こぶし会の皆様からは工学アカデミア計画の「特別奨学事業」や「夢考房プロジェクト事業」等に対して多額のご寄附を賜り、また、この度のコロナ禍によって経済的に困窮した学生諸君の勉学・研鑽をご支援戴くことが出来ました。茲に、改めて心から御礼申し上げます。

このような国難とも言うべきコロナ禍にあって母校に学ぶ学生諸君に対するご支援の一環として、卒業生が経営する企業からのご寄附の例を紹介してみることに致します。

令和2年度末、富山県に本社を置く株式会社電陽社様(代表取締役 東達氏)から、「この度、創業以来65周年を迎えることが出来た。コロナ禍において経済的に困窮する学生を是非とも支援したい」とのお申し出があり、百万円の寄附金を戴きました。同氏からは今回の寄附のみならず、「地域の医療従事者に対する支援も積極的に行っている」と伺いました。後日、写真にもありますように、泉屋吉郎学園理事長からの感謝状をお渡しするために同社の金沢支店をお訪ねした折に、



石川 憲一

特別奨学事業寄付金募集委員長
金沢工業大学名誉学長

同氏から「本学園に対して今後も出来る限り応援したい」との温かいメッセージを承り、大変感激致しました。このような崇高な想いをこぶし会の皆様と共有致したく、ここに紹介させて頂きました。その他、多くの卒業生から「今だから後輩を支援したい」とのお申し出が多数寄せられていると伺っており、大変喜ばしく思うと同時に、こぶし会の皆様から更に多くの善意が寄せられることを期待して止みません。茲で、表にはコロナ禍にある令和2年度寄付実績を示します。

おわりに

古来、「国家の盛衰は人材育成にあり」と言われております。本学園を創設した先人の慧眼によって打ち立てられた建学綱領に謳われている理念・目的を達成するためにも、的確な先見性と果敢な実行力が求められます。本学園を巣立ったこぶし会会員の皆様のお力添えを戴きながら、現在、本学園において研鑽を積んでいる学生諸君を育成しグローバルに雄飛させていくことが本学園の未来の姿を形成するものと考えております。従って、この度のコロナ禍においてこそ母校とこぶし会との絆を更に強めて戴きますようお願い申し上げます。

令和2年度寄付実績表

令和2年度	特別奨学事業	夢考房	その他教育研究経常費	合計
寄付実績額	74件 6,007千円	102件 5,562千円	134件 68,258千円	310件 79,827千円
(内卒業生)	47件 1,487千円	68件 1,377千円	66件 1,383千円	181件 4,247千円



寄付感謝状贈呈 向かって右より、石川名誉学長、(株)電陽社代表取締役 東達氏(大学・経営・昭和49年卒)、同社グループ企業ワイディシテム(株)営業本部金沢営業部長 上田 哲治氏(大学・電気・平成11年卒) (2021年4月28日同社金沢支店にて)

投稿はこちらへ！

1

2

3



川口 心一
(大学・電気・S44)

横本 恭弘氏
(大学・建築・昭和 55 年卒)
【労働・社会保険振興功績】

金沢国際高専同窓会 ホームカミングデーを開催！

令和3(2021)年 10月16日(土)・17日(日)のいずれか1日

金沢国際高専同窓会はオンライン形式でのホームカミングデーを開催する予定です。母校について語り合う絶好の機会ですので、多くの卒業生の参加をお待ちしております。

高専同窓会では、高専祭(こぶし祭併催)に併せて、これまでホームカミングデーを実施してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、校舎に足を運んでいただくことが難しく、昨年は試験的にオンラインで実施しました。

好評だったことから、今年もオンライン開催を予定しており、時間を限定することも考えています。オンラインでの実施となるため、不明な点がある方は、こぶし会事務局までご連絡いただければサポートいたします。

● お問い合わせはこぶし会事務局まで



昨年実施されたオンラインでのホームカミングデーの様子。背景を透明にして画面と合成する技術も使われました



一昨年のホームカミングデーでは、多くの卒業生が母校を訪れました



こぶし会ホームページ 最新情報を随時発信中

こぶし会ではホームページにおいて最新情報を発信しています。会員の皆さんに知っていただきたい「お知らせ」のほか、保二会、高専、大学の各同窓会の活動、全国の各支部を紹介しています。そのほか、こぶし会の概要や事業内容についても掲載しており、懐かしの校歌を聴けるコーナーもあります。

スマートフォンにも対応していますので、ぜひ一度ホームページでチェックしてください。

こぶし会のコロナ対策

今年度は活動(行事)を中止もしくはオンライン開催

こぶし会を日本一の同窓会組織に！ 同窓会維持会費納入のご案内

こぶし会では、平成7(1995)年度より「同窓会維持会費」制度を導入し、**満40歳以上の会員に年額1,000円を納入していただいております。**

77,000人を超える会員と各支部への活動支援、年2回の『会報こぶし』の発行など、同窓会活動の発展を図るために、ご理解とご協力をお願いします。対象となっている方には、払込取扱票を同封しています。

■会費の払込方法 郵便払込(3年分一括払い3,000円)

お近くの郵便局から同封の払込取扱票を利用して払い込んでください。住所等の訂正がございましたらインフォメーションカードにご記入の上ご返送ください。

対象者

- 保二会会員
- 高専同窓会 令和4(2022)年3月末日で40歳以上の会員
- 大学同窓会 令和4(2022)年3月末日で40歳以上の会員

*会費の納入は80歳までとさせていただきます。

*平成30(2018)年度に3年分の同窓会維持会費の払い込みをされた方は、令和3(2021)年3月に期限が切れております。払込取扱票を同封させていただいた方はその該当者となりますので、払い込みくださいようお願いいたします。

こぶし会
事務局

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7番1号 金沢工業大学内
TEL.076-294-6375(直) FAX.076-294-0886
Eメール.kobushi@kanazawa-it.ac.jp URL.https://www.kobushi.jp



QRコードで
ホームページを
チェック！